

群馬工場に太陽光発電設備を導入 一般家庭約 300 世帯分の年間 CO₂排出量 1,165t削減

株式会社 加藤製作所(本社:東京都品川区、代表取締役社長:加藤 公康、以下、当社)は、群馬工場(群馬県太田市)の工場棟屋根の一部に太陽光発電設備を設置し、2026年4月より運用を開始いたします。発電した電力は主に工場内で自家消費し、再生可能エネルギーの活用による CO₂排出量削減を図ります。



群馬工場入口外観



屋根上に設置した太陽光パネル

背景

当社は中期経営計画(2025~2027)において「サステナビリティ経営の実践」を重要方針の一つとして掲げ、環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。これまで LED 照明の導入など省エネルギー施策を推進してきました。今回、群馬工場の屋根を活用して太陽光発電設備を導入することで、再生可能エネルギーの利用拡大と継続的な CO₂排出量削減を推進します。

<太陽光発電設備の概要>

所在地	群馬工場(群馬県太田市東新町 823)	設置時期	2026年2月
設置場所	工場棟屋根の一部(敷設面積 約9,853㎡)	開始予定	2026年4月
用途	工場内電力として自家消費(余剰電力は市場売電)	供給期間	2046年まで

導入効果

本設備はオンサイト PPA 方式により設置されます。オンサイト PPA とは、発電事業者が工場敷地内に太陽光発電設備を設置・所有し、発電した電力を工場などの施設を所有する企業が購入して使用する仕組みです。

本設備の年間想定発電量は約 276 万 kWh です。このうち、工場稼働日に発生する約 166 万 kWh を自家消費する予定です。これにより、群馬工場の年間使用電力の約 6 割を賅う見込みです。

また、休日等の工場非稼働日に発生する余剰電力については、FIP 制度^{※1}を活用して卸電力取引市場等へ売電される予定です。売電された電力に紐づく環境価値(非化石証書)^{※2}は、当社の CO₂排出量削減分として計上されます。

※1 FIP 制度:再生可能エネルギーの発電事業者が市場で売電し、その売電価格に一定の補助が上乗せされる制度。

※2 環境価値(非化石証書):再生可能エネルギーなどの非化石電源で発電された電気の「環境価値」を証書化したもの。CO₂排出量を削減したとみなされ、温室効果ガスの算定排出量の報告に利用可能。

今後の展開

当社は 2030 年度までに CO₂排出量を 2018 年度比で 38%削減する目標を掲げています。本設備の稼働によりその達成に向けた取り組みを一層加速させるとともに、再生可能エネルギーの活用や省エネルギーの推進を通じて事業活動における環境負荷低減に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

会社概要

商号: 株式会社 加藤製作所
所在地: 〒140-0011 東京都品川区東大井 1-9-37
設立: 1935年1月(昭和10年1月) 創業: 1895年(明治28年)
事業内容: 建設用クレーン、油圧ショベル等、その他製品の製造・販売
URL: <https://kato-works.co.jp>

【本プレスリリース、取材に関するお問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション部 担当: 昇(のぼり)、小浦(こうら)
TEL: 03-3458-1144 FAX: 03-3458-1151 MAIL: pr-kato@kato-works.co.jp